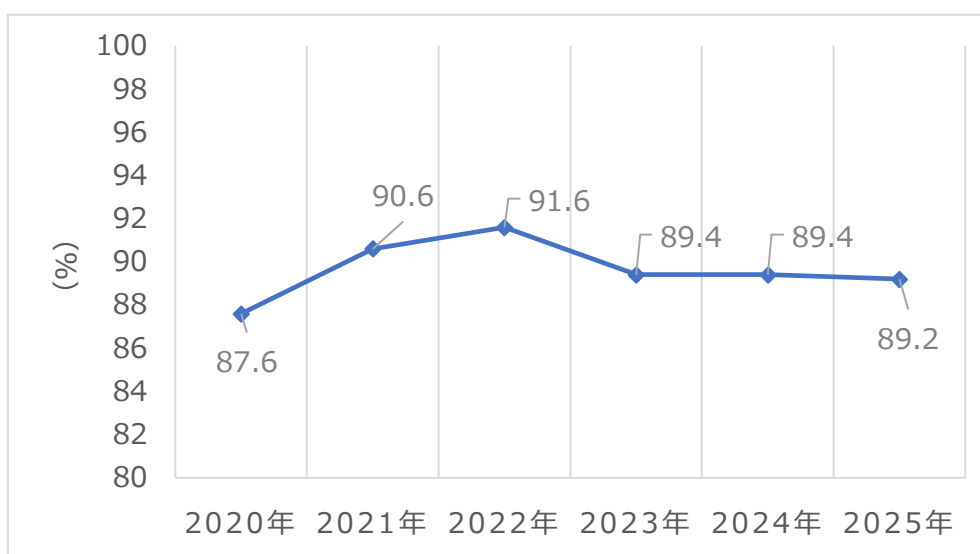


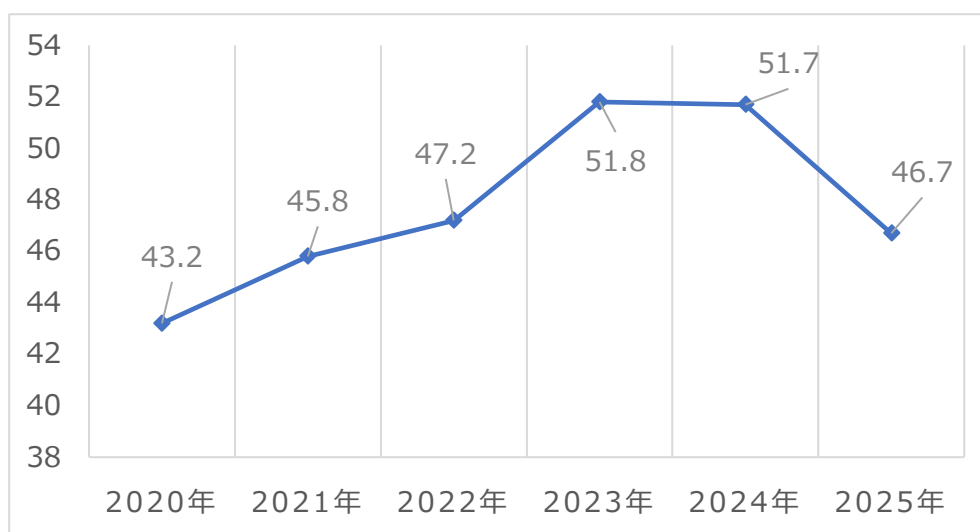
回復期病棟

1. 在宅復帰率^{※1}



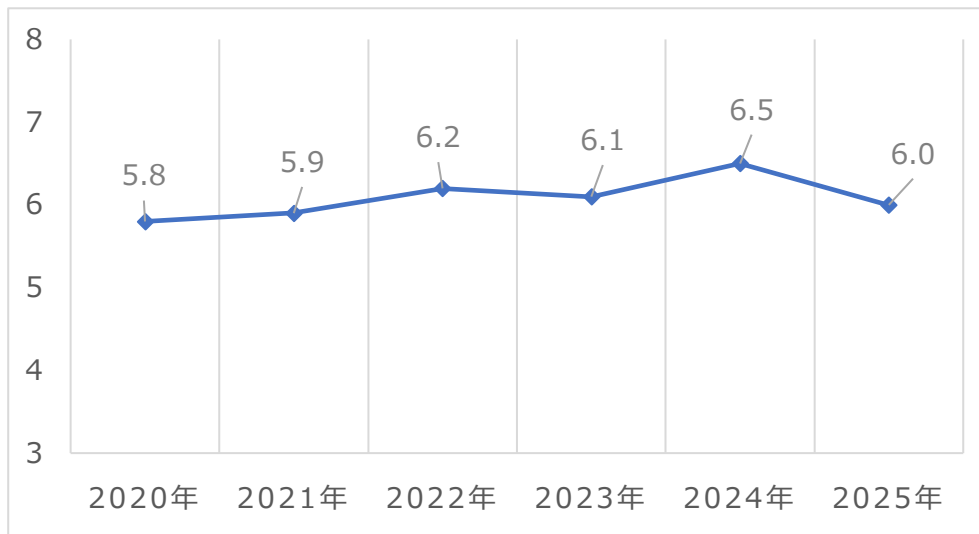
在宅復帰率とは、病院から自宅、またはそれに準ずる施設に退院した患者様の割合です。入院された患者様の約8割が、自宅もしくは自宅に準ずる施設（特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホームなど）に退院されています。当院の回復期病棟における在宅復帰率は、2025年度で89.2%となっています。

2. 実績指数^{※2}



実績指数とは、リハビリテーションを提供したことによる改善度を表す指標です。リハビリテーションの効果と言い換える事もできます。当院では一人一人の患者様に対して、スタッフが一丸となり、心身機能の向上をはじめ、退院までのサポートが充実している事が要因と考えております。当院の回復期病棟における実績指数は 2025年度 46.7 となっており、適切な入院期間で最大限のリハビリテーション効果を提供できるよう努めております。

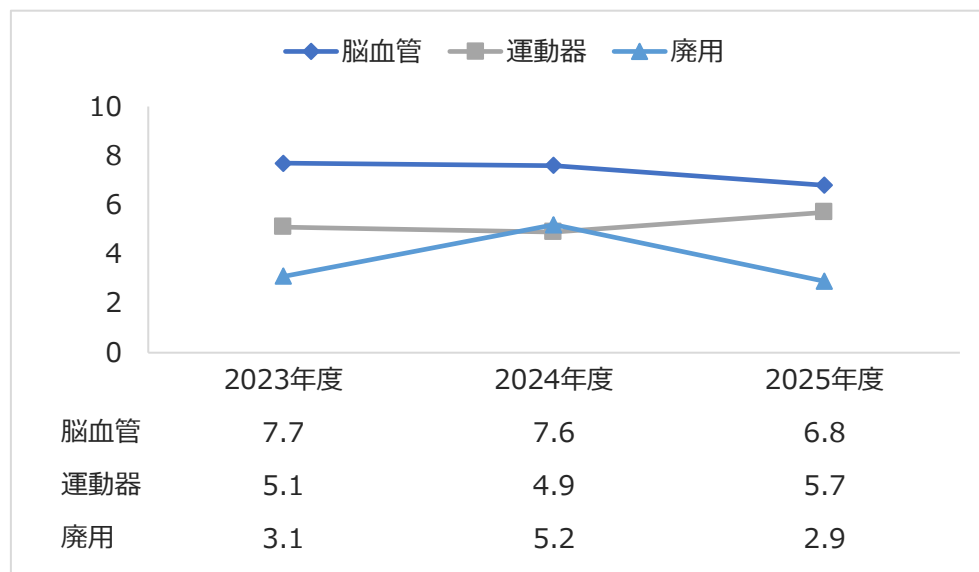
3. 1日あたりのリハビリテーション提供単位数^{※3}



単位とはリハビリを行う時間であり、20分が1単位です。

当院の回復期病棟におけるリハビリテーション提供単位数は、2025年度1日平均6.0単位（1単位＝20分）の個別リハビリテーションを提供しています。

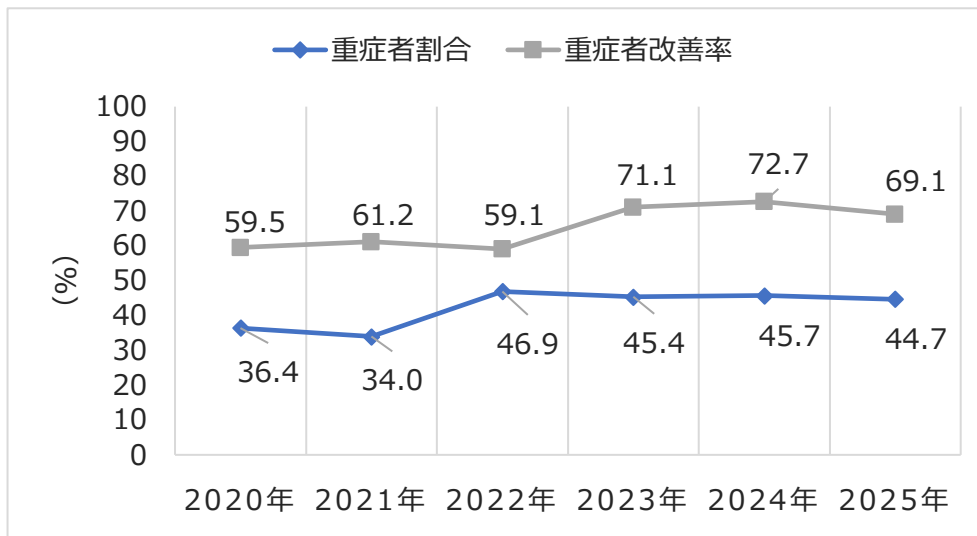
4. 疾患別平均リハビリテーション提供単位数



当院では日本リハビリテーション医学会認定専門医を含むリハビリテーション科医師をはじめ、多くの理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が在籍しております。リハビリテーションを必要とする患者様に、各専門職がチームを組んで患者様の回復を支えていきます。

2025年度の疾患別平均提供単位数から、脳血管6.8単位、運動器5.7単位となっております。

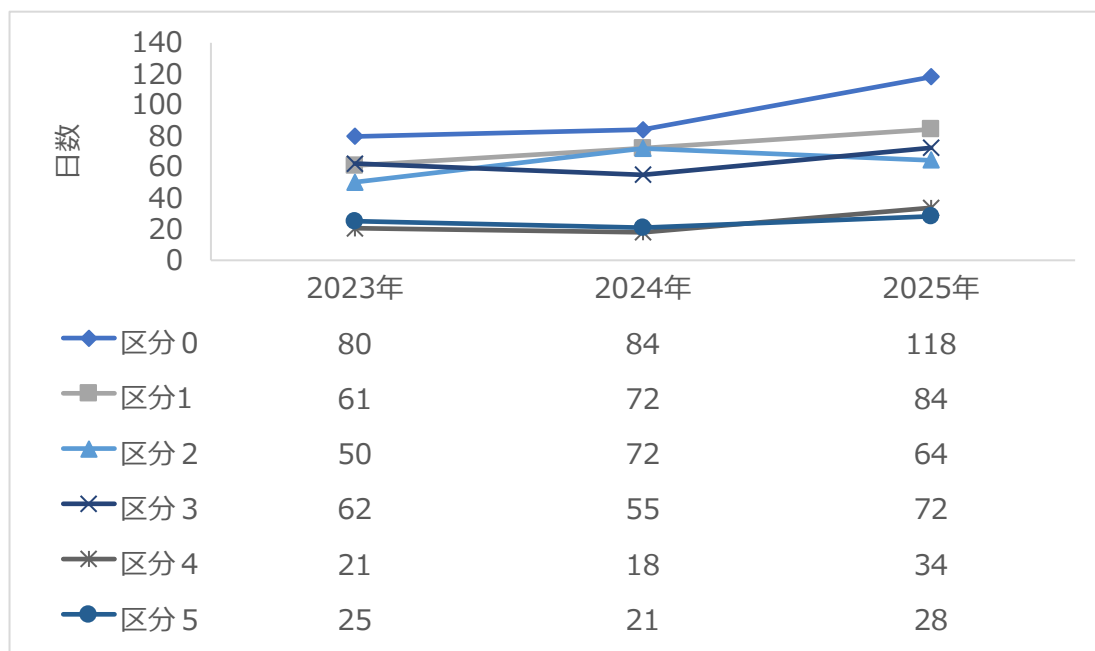
5. 重症者割合^{※4}及び重症者改善率^{※5}



重症者割合とは、食事・更衣・入浴等日常生活に必要な動作が困難な患者様の割合です。重症者改善率とは、入院時と退院時を比較し日常生活動作がどれだけ改善したのかを示す指標です。

当院の回復期病棟における重症者割合は、2025年度44.7%となっており、積極的に重症患者様を受け入れております。リハビリテーションによる重症者改善率は69.1%となっています。

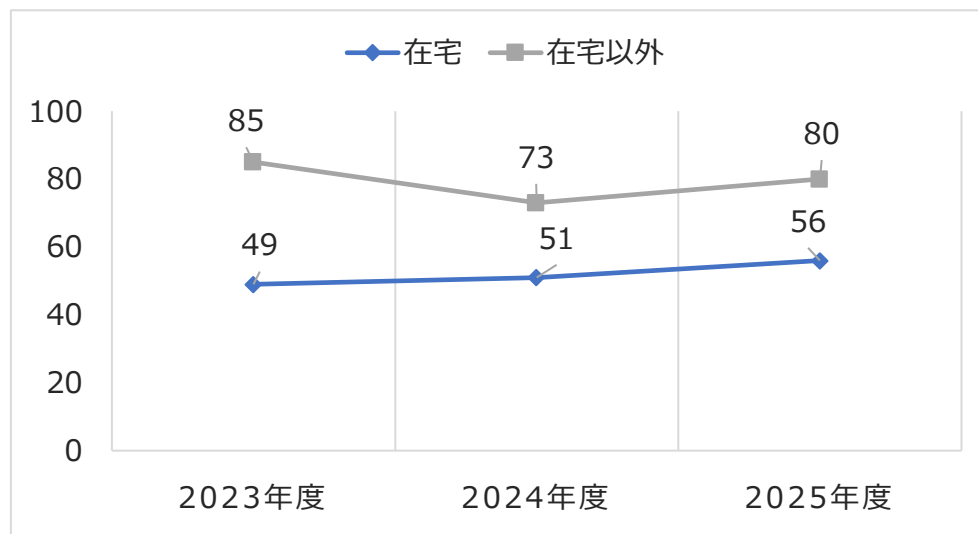
6. 回復期区分^{※6}別の平均入院日数



回復期区分とは、回復期病棟へ入棟できる疾患を6つの区分に分けたものです。区分0：高次脳機能障害を伴う脳血管疾患や、重度の脊髄損傷等の中枢疾患、区分1：脳血管疾患や、重度の脊髄損傷等の中枢疾患、区分2：大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折または多発骨折後、区分3：廃用症候群、区分4：神経、筋または靭帯損傷後、区分5：股関節または膝関節の置換手術後となっています。

2025年度の当院の回復期区分別の平均入院日数は、回復期区分0：118日、回復期区分1：84日、回復期区分2：64日、回復期区分3：72日、回復期区分4：34日、回復期区分5：28日となっております。

7. 退院時の転帰先^{※7}別の平均入院日数

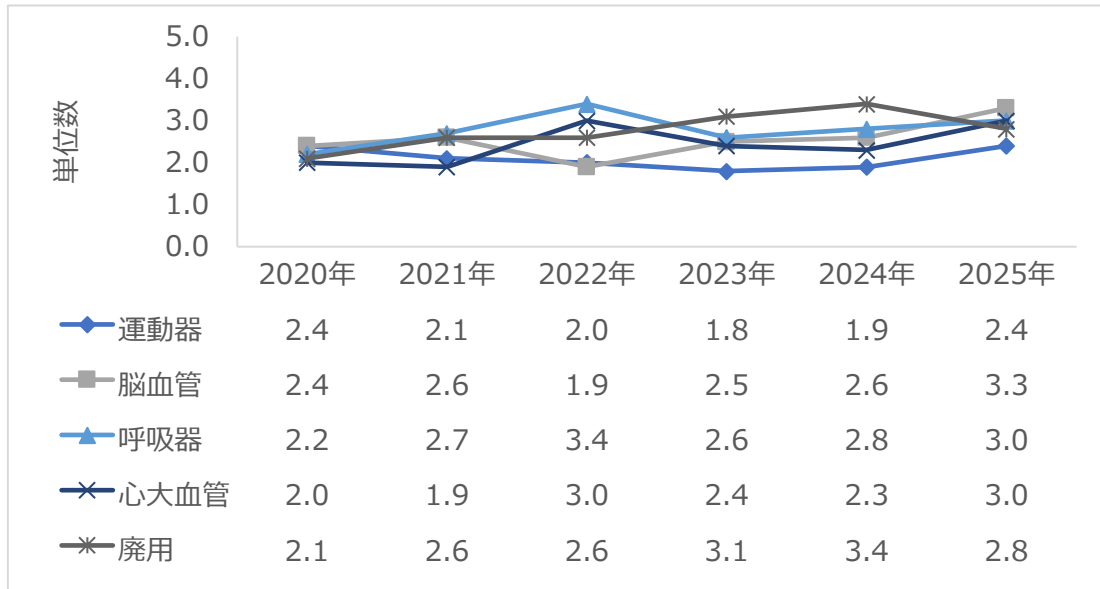


「転帰」とは、ある時点での結果のことを指します。退院時の転帰先とは、退院時の結果、つまり退院先のことを示しています。当院では、様々な手段を用いてアプローチを行い、障害を持ちながらも生活していく方々の自立を支援することを最上の課題としています。患者様の心身機能や生活能力が目標としていたゴールに達したのであれば、退院は早ければ早いほうが良い、入院期間は短ければ短いほうが良いことに相違はありません。しかし、より高いゴールが得られる、もしくはゴールを修正する必要があると主治医が判断した場合は、患者様やご家族様とご相談しながら、入院期間を入院限度期間の範囲内で再設定することで適切な退院支援を行ってまいります。

当院の2025年度の退院時の転帰先別の平均入院日数は、在宅の方が、在宅以外よりも入院日数が少ない傾向にあります。

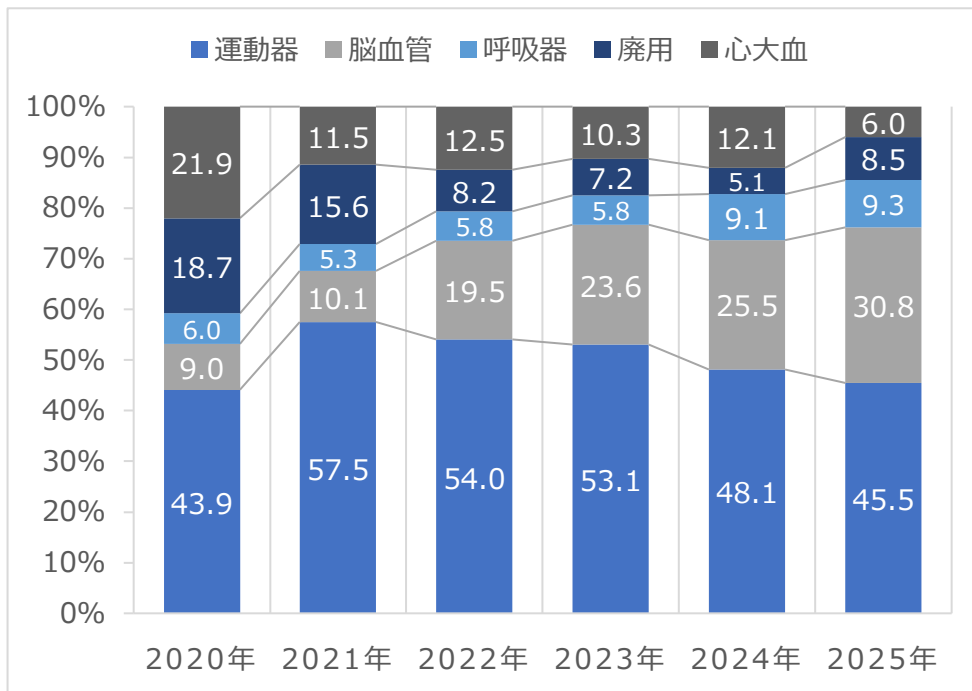
一般病棟

1. 1日あたりのリハビリテーション提供単位数



当院の一般病棟におけるリハビリテーション提供単位数は、2020年度1日平均2.2単位、2021年度1日平均2.4単位、2022年度1日平均2.6単位、2023年度1日平均2.5単位、2024年度1日平均2.6単位、2025年度1日平均2.9単位（1単位=20分）の個別リハビリテーションを提供しています。

2. 疾患内訳



当院の一般病棟における入院患者様の内訳は、運動器疾患が約半数を占めており、残りの半数が内科系疾患の患者様となっております。あらゆる疾患の患者様に対応できるスタッフの育成に日々努めております。

3. 入院患者様の病名と平均入院日数（上位5位まで）

2025 年度	病名	平均入院日数
1 位	肩関節術後	19
2 位	パーキンソン病	30
3 位	脳卒中	68
4 位	脳血管・その他	38
5 位	股関節疾患(人工関節)	31
2024 年度		
1 位	肩関節術後	20
2 位	パーキンソン病	30
3 位	脳血管・その他	39
4 位	股関節疾患(人工関節)	31
5 位	慢性心不全	43
2023 年度		
1 位	肩関節術後	20
2 位	脊椎・胸腰椎疾患	42
3 位	パーキンソン病	27
4 位	股関節術後	24
5 位	廃用症候群	47
2022 年度		
1 位	肩関節術後	21
2 位	脊椎・胸腰椎疾患	38
3 位	慢性心不全	36
3 位	廃用症候群	65
5 位	股関節術後	30
5 位	パーキンソン病	23

当院の一般病棟における入院患者様で最も多い病名は、2022～2025 年度は肩関節術後となっております。脳血管疾患やパーキンソン病などの患者様も多く受け入れておりますので、懸架システム、赤外線動作分析装置、重心動揺計といった医療機器を導入してリハビリテーションを提供する体制を整えています。